

重要港湾大船渡港永浜地区の-13m岸壁が完成しました！！

～県内最大級の大型船が接岸、「試験荷役」を実施～

大船渡地方振興局土木部

平成21年4月10日、大船渡港で永浜地区水深-13m岸壁の完成記念式典と、第一船接岸記念式典が行われました。

今回完成した永浜地区の水深-13m岸壁は、県内の港湾の中で最も水深の深い公共岸壁であり、大船渡港では2箇所目の水深-13m岸壁です。この岸壁は、平成6年度から国直轄事業で整備を進めてきたものであり、完成まで15年の歳月を要しました。

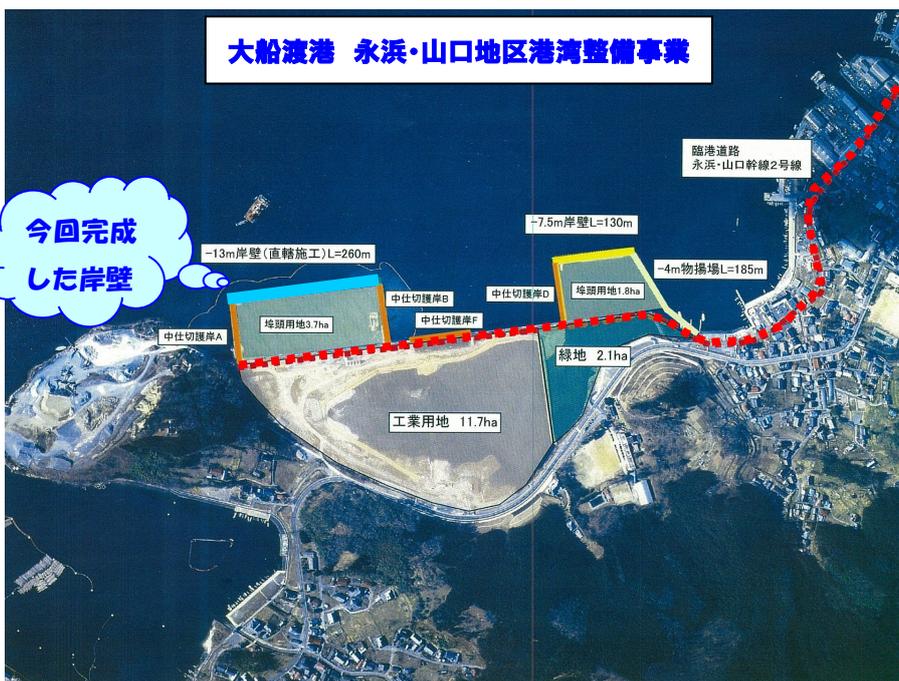
また、今回第一船として接岸した大型船「HAYAMA STAR」は、搭載重量5万2千900トンで過去に県内港湾の公共岸壁に接岸した中で最大級の船舶です。(船長：188.5m、船幅32.3m、満載喫水12.163m)

今回の接岸は、港内の航行安全性や環境への影響などを検証する「試験荷役」が行われたもので、太平洋セメント(株)大船渡工場の燃料であるオイルコークス約5万トンを積載し、3月下旬にアメリカのロングビーチを出港、長い船旅の末、大船渡港に入港したものです。今回の「試験荷役」は大船渡港へ入港する大型船舶の増加につながるものと期待されています。

また、大船渡港では、現在、県が水深-7.5m岸壁、港湾貨物の荷さばき場所としてのふ頭用地、当該地域へのアクセスとしての臨港道路、企業立地のための工業用地などの整備を進めており、大船渡港がより一層利用しやすい港湾となるように大船渡市と連携しながら、港湾の振興を図ってまいります。



記念式典の様子



接岸した大型船「HAYAMA STAR」

